

(1) 地域公共交通の実態について

① アンケート結果の概要

● 市民の主な交通手段について（調査報告書 P. 8）

- ・ 電車利用 38.7%（バス、自転車との併用利用を含む）
- ・ 自動車利用 28.8%
- ・ 自転車利用 26.4%（電車、バスとの併用利用を含む）
- ・ バス利用 11.0%（電車、自転車との併用利用を含む）

市民の主な交通手段は、電車利用の割合が一番高く、次いで自動車となっています。バスを利用している人が11%と少ないことがわかります。（調査報告書 P. 8）

● 市内のバス利用について

平成27年4月1日以降に市内のバスを利用されたことがある人は30.8%であり、利用したことがない人が67.9%と利用している人が少ないことがわかります。（調査報告書 P. 21）

【目的別】（調査報告書 P. 28）

- ・ 買物 46.6%
- ・ 鉄道駅 36.6%
- ・ 公共施設 24.5%
- ・ 通院 12.5%

買物の割合が一番高く、次いで鉄道駅利用となっています。

【公共施設の内訳】（調査報告書 P. 16）

- ・ 富士見市役所 62.7%
- ・ 図書館 16.9%
- ・ 市民文化会館キラリふじみ 6.8%
- ・ 公民館 1.7%
- ・ 出張所 1.7%
- ・ その他 10.2%

市内のバス利用目的として市役所利用の割合が一番高く、公民館や出張所は低くなっています。（調査報告書 P. 14～P. 16）

【利用頻度】（調査報告書 P. 26、P. 27）

- ・年に数回程度 37.2%
- ・月に1回程度 26.9%
- ・週に1回程度 16.4%
- ・週3回以上 10.5%

年に数回程度の割合が一番高く、次いで月に1回程度となっています。

年代別にみますと、20代から50代までは利用頻度が低い傾向があり、60代以上になると利用頻度が高くなる傾向があります。

●市営市内循環バスについて

70代以上が民営路線バスと比較し市営市内循環バスの利用割合が高くなっています。（調査報告書 P. 24）

利用目的は、市内のバス利用同様に、買物利用の割合が一番高く、次いで公共施設の利用、鉄道駅利用となっています。（調査報告書 P. 29）

【公共施設の内訳】（調査報告書 P. 16）

- ・富士見市役所 61.7%
- ・図書館 19.1%
- ・市民文化会館キラリふじみ 8.5%
- ・公民館 2.1%
- ・出張所 0%
- ・その他 8.5%

市営市内循環バスの利用目的として市役所利用の割合が一番高く、公民館や出張所は低くなっています。

利用頻度は、市内のバス利用同様に、「年に数回程度」が一番多く 42.3%、次いで「月に1回程度」が 23.5%となっており、利用頻度が低くなっています。

（調査報告書 P. 28）

利用理由は、「目的地までの運行路線があるため」が一番多く、次いで「バス停留所が近くにあるため」、「他に交通手段がないため」となっています。

（調査報告書 P. 25）

見直し要望として、運行本数の増便や路線変更等の意見がありました。

（調査報告書 P. 46～P. 51）

●地域別の主な交通手段の特徴について

南畑地域は、自動車利用の割合が一番高くなっています。(調査報告書 P.9) これは、鉄道駅から距離があることや、バスの運行時間とニーズがあっていない等の原因が考えられます。また、デマンド交通を利用するという回答が多くなっています。(調査報告書 P.57)

水谷東地域は、南畑地域と同様鉄道駅から距離があるが、バスと電車を主な交通手段としている人が多くありました。これは、地域にバス運行が充実しており、民間路線バスが志木駅へ行くためと考えられます。アンケート結果においても、日常生活で一番利用する駅は志木駅と 74% (調査報告書 P.11) が回答しており、バスの満足度も高くなっています。(調査報告書 P.41)

②アンケートの追加分析

●市内のバス利用の有無別分析について

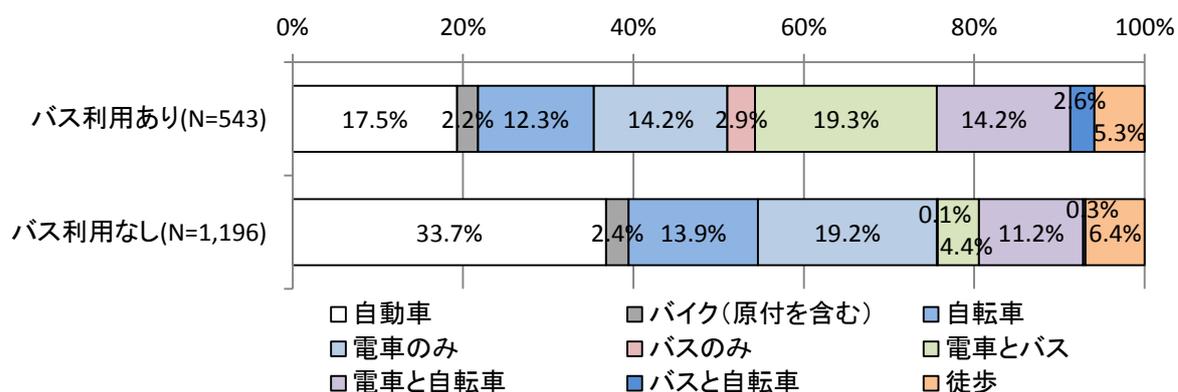
平成27年4月1日以降に市内のバスを利用している人は 30.8%、利用していない人は 67.9%となっています。(調査報告書 P.21 参照)

富士見市の人口分布をみますと、鉄道駅から半径 1,000m 以内の人口は、市全体の約 68%となっており、市内のバスを利用していない人の割合と符合していることがわかります。

バスを利用している人は、バスを利用していない人に比べ、主な交通手段で「電車とバス」を併用して利用する割合が高くなっており、鉄道駅までバスを利用していることがわかります。

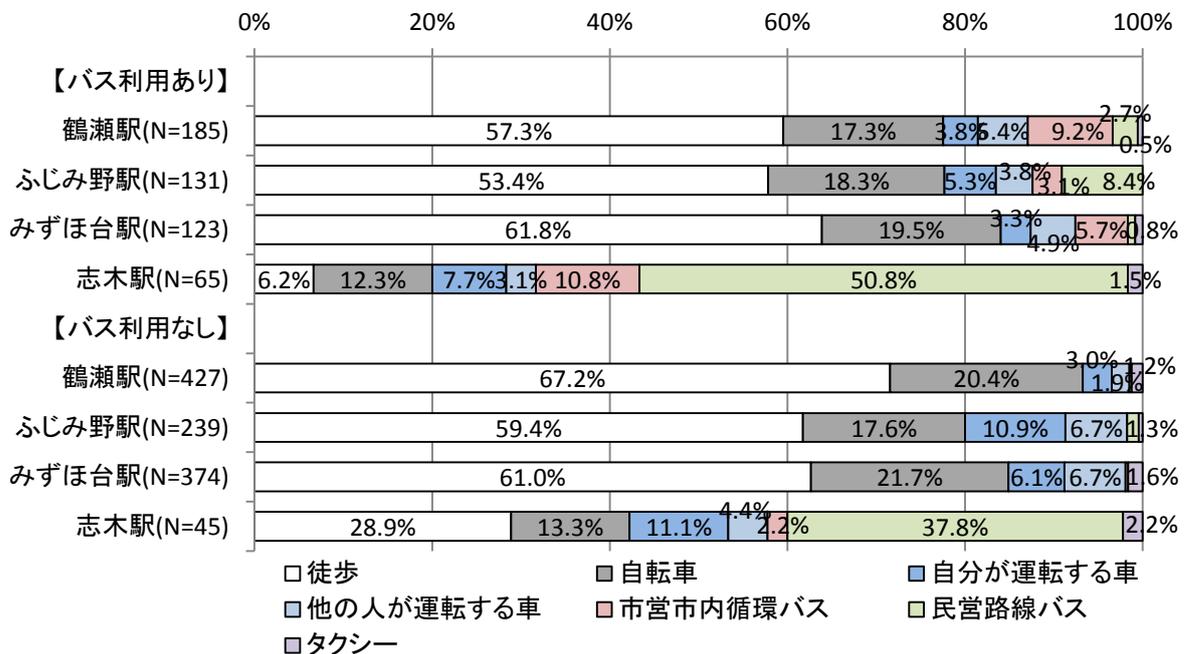
バスを利用していない人は、バスを利用している人に比べ、自動車の利用の割合が約 2 倍になっており、バスを利用しない分自動車を利用していることがわかります。

【富士見市内のバス利用の有無×Q7(現在、主に使用している交通手段)】



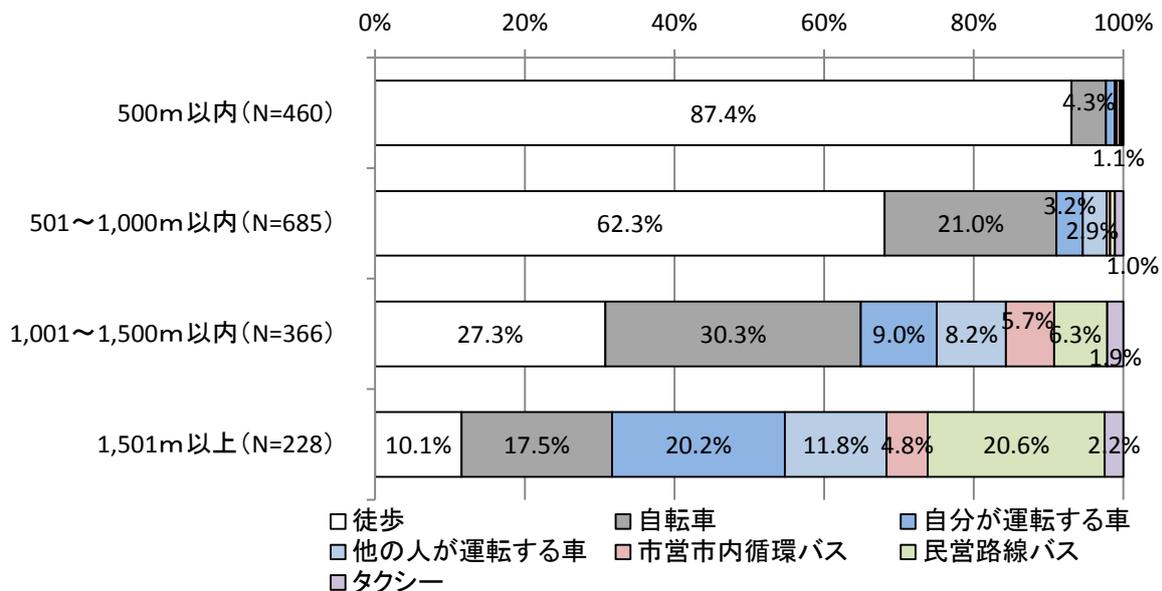
各駅へ行く交通手段では、バス利用の有無に関わらず徒歩の割合が高くなっています。志木駅だけは、民営路線バスの利用が高くなっています。

【富士見市内のバス利用の有無×Q8-①(よく利用する駅への交通手段)】



●鉄道駅からの距離別の移動手段について

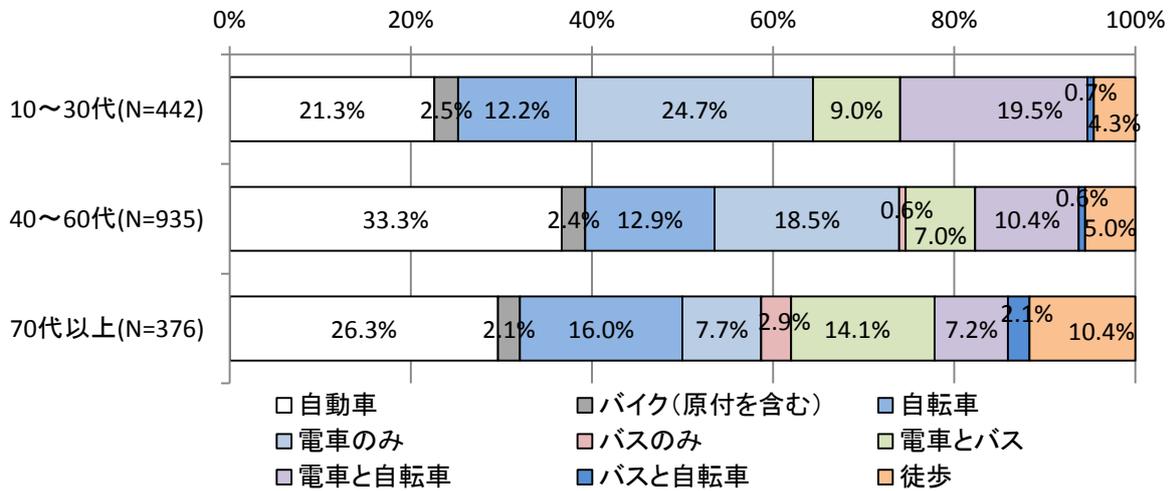
鉄道駅から 500m以内は 87.4%が徒歩と回答しており、1,000m以内までは徒歩と自転車利用が多くなっています。自転車利用は、500mを超えると利用が増え、自動車は1,000mを超えると利用が増加しています。また、1,000mを超えるとバス利用の割合が高くなっています。(富士見市内バス路線図参照)



●年代別の移動実態について

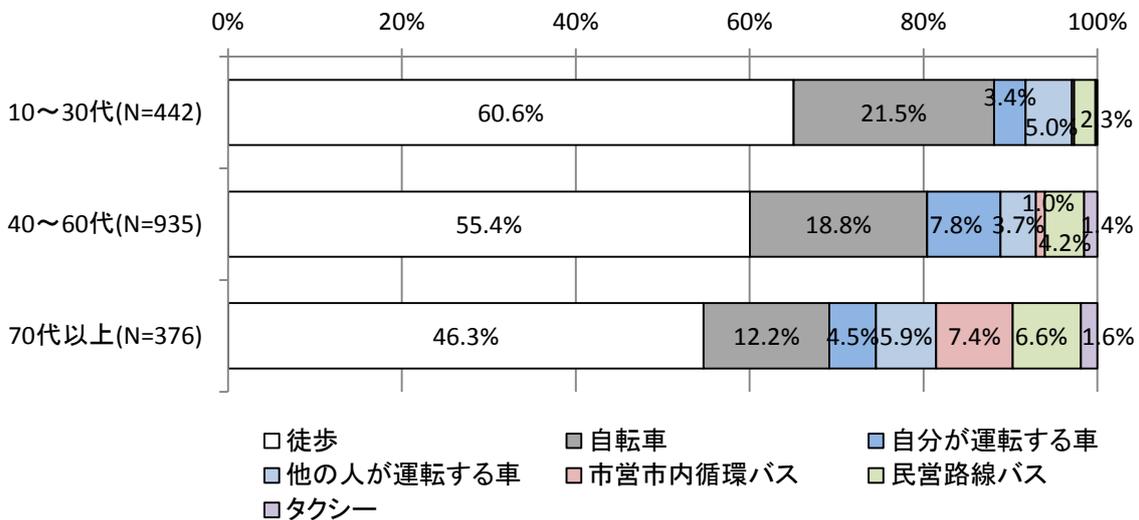
【年代別×Q7(現在、主に使用している交通手段)】

10～30代は電車利用の割合が高く、40～60代は自動車利用が高くなっています。70代以上は、他の年代と比べ徒歩移動やバス利用の割合が高く、電車のみ利用割合が低くなっています。



【年代別×Q8-①(よく利用する駅への交通手段)】

鉄道駅までの移動は全年代で徒歩の割合が一番高く、次いで自転車となっています。70代以上の方は、バス利用の割合が高くなり、特に市営市内循環バスの利用割合が高くなっています。



③市営市内循環バスの利用者数の変化

●年間利用者状況

平成25年度から平成27年度の3か年の利用者数を比較すると、平成26年度は、ららぽーと富士見の建設関係者等により利用者が増加しています。

平成27年度は、民間路線バスが拡充された中で市内循環バスは運行ダイヤの一部改正を行ったが、平成25年度の利用者数合計とほぼ同数でした。

市営市内循環バス利用状況

年度	運行日数	一般利用者 (人)	特別乗車数 (人)	利用者数合計 (人)	運賃収入合計 (円)
25	359	101,191	85,596	186,787	16,693,381
26	359	123,576	108,197	231,773	19,855,072
27	360	80,007	107,810	187,817	12,648,506

●系統別利用者状況(別紙1参照)

民間路線バスが拡充したエリアの系統は利用者が減少傾向にあるのに比べ、民間路線バスが運行していないみずほ台駅系統は利用者が増加しています。

●ダイヤ別利用者状況(別紙2参照)

市営市内循環バスの利用数は早朝から日中の便が多く、18時以降は少なくなっています。また、平成27年度は平成25年度26年度に比べ、19時以降の前谷住宅線、山室会館線、ふじみ野駅線の利用者が大幅に減少しています。

●運行収支状況

収支比較表

年度	運行経費 (円)	運賃収入 (円)	補助金額 (円)	収支率 (%)
25	39,678,273	16,693,381	22,984,892	42.1
26	37,345,536	19,855,072	17,490,464	53.2
27	34,422,595	12,648,506	21,774,089	36.7

平成26年度は、ららぽーと富士見の建設関係等により利用者が増加し、収支率が高くなったと考えられます。平成27年度は、民間路線バスの新規参入等市内の交通環境が変化したことに伴い、運賃収入が低くなり収支率が低くなったと考えられます。